

ヨッヘン・クレッパ―作詞 クリスマス の歌

- 和訳の試み -

富田 恵美子・ドロテア

今日、世界で最も有名なクリスマスの歌は何かと聞かれれば、19世紀にザルツブルクで生まれた「きよしこの夜」(“ Stille Nacht ”)が候補に挙がることになるが、ドイツ語圏も含め、何連にも渡る原詩の中から僅か最初の三連しか歌われない習慣がすっかり定着している。確かにその三連の中にもキリストの受肉の神秘が語られてはいるが、そこにはめられているフレームのスタイルはまさにピーダーマイヤー風であり、当時の流行を物語っているに過ぎない。その後、ドイツ語圏の賛美歌は大きく発展したが、ピーダーマイヤー流の歌ほど広まらなかった理由としては、一つには時代がまだ浅いことと、もう一つには、気の利いた、消化し易い歌がさほど多くはないことにあると考えられる。ヨッヘン・クレッパ―(1903 - 1942年)作詞のクリスマスの歌も後者の典型的な例であり、ドイツ語圏の現代賛美歌の懐の広さを示していると思われる。

そこで本稿ではその実例をみるためにも以下、クレッパ―がクリスマスを題材にして詠んだ歌7編の訳を試みたい。「善悪を知る木」以外の歌は全て私歌集『キリエ・聖歌』(“ Kyrie. Geistliche Lieder ”)¹⁾に収められている。「善悪を知る木」は、死後に刊行された詩集『時の行く先』(“ Ziel der Zeit ”)²⁾にも載ったが、それ以前に例えばBärenreiter社で出版された伴奏つき『新しいクリスマスの歌』(“ Neue Weihnachtslieder ”)³⁾などの歌集にも掲載されている。両者ともいずれは礼拝の場で教会賛美歌として歌われることをクレッパ―が意図していたことには変わりはないが、

クレッパー自身は、前者を「朗読用の詩」(“ Lesegedichte ”)と後者を「曲なしではそもそも刊行してほしくない歌」⁽⁴⁾として定義付けて区別しようとしたことを日記に記している。

クレッパーの死後60年以上が過ぎた今改めて振り返ると、クレッパーが意図したことが必ずしもその通りに実現されたわけではない。つまり、朗読用の詩にはメロディーが時には幾通りも付されたものもあれば、本来歌い上げるための歌詞と見なされていた歌が行方不明になり、見知らぬ文庫の中で今後の発掘を静かに待っている歌もある。賛美歌とは、真の賛美歌になるためには早かれ遅かれいつかは作詞した人の手を離れ、時には変容しながら教会の中で生き続ける、極めて実用的なものであり、且つ共同体の中で歌われて初めて生を得る文学であることは明らかである。

幸い、クレッパーの場合は、彼がどの歌を、いつ、どのような環境の中で作詞したのかが遺された日記に詳しく記されている。これらの賛美歌の詳細な成立のプロセス及び解釈は紙面の都合上次回に譲ることにして、本稿では先ず七編の全訳から紹介したい。それぞれの歌のモットーとして使われている聖句はクレッパー自身が選んだものであり、そこに文学は聖書の言葉の釈義であるべきだと考えたクレッパーの根本思想が現れている。「やめなさい…」という歌には更にルターの言葉も掲げられているが、これはクレッパーがルター神学に依存していたということではなく、現代ドイツに生きるクレッパーがルターの説教を聖書に深く聞き入るための有効な手段と見なしていたからに他ならない。「善と悪を知る木」は、詩集として出版された本には筆者が確認できる限り、発想の原点になっている聖句が記されていないが、例えばBärenreiter社刊行の『新しいクリスマスの歌』には各連ごとに聖句の箇所が示されている。これは出版社の加筆ではなく、むしろこの版の方がクレッパーの本来意図していたものに忠実であり、元々クレッパー自身から指定されたものであると考えるべきである。日記にも「ようやく再び教会賛美歌を作詞した： クリスマス・ツリー の歌、ホセア14章9節と、夕の慰めの歌、エレミヤ15章16節」とある。⁽⁵⁾ 詩歌

の順序は『キリエ』にあるものとは異なるので、ここでは成立の過程を浮き彫りにするため、年代順に列挙する。成立年月日は、クレッパ―の日記を参考にしながら和訳本文のタイトル脇に加筆した。聖書の和訳は全て新共同訳（日本聖書協会 1987, 1988 年）による。

現在ではクレッパ―が作詞したクリスマスのための賛美歌の内、二編がドイツの主なプロテスタント系賛美歌集に収められおり、その中の一編はドイツ・カトリック教会の賛美歌集にも収録されている。⁽⁶⁾ ちなみにこの二編は最近和訳され、日本の賛美歌集にも登場している。⁽⁷⁾ 旋律なしで全訳あるいは一部和訳されている詩歌は、筆者の知る限り宮田光雄著『いのちの証人たち』⁽⁸⁾ に認められるのみである。

クレッパ―の歌は、ドイツ教会賛美歌が復興期を迎えた30年代に、いち早く当時の教会音楽家の手に渡り、現代的なメロディーが付され、日をおかずに当時の青年音楽隊などによって歌われた例が多いことから、ナチス政権が猛威を奮う只中、心の飢えに苦しむ人々がいかに新鮮な感動を彼の詩に覚えたかが窺い知れる。最近ではヘルムート・ブラントとズィークフリート・フィーツ作曲の新しいメロディーが注目されている。⁽⁹⁾ クレッパ―の歌は「暗い」という印象を持つ人が多いようだが、これは恐らく皮相的なテキスト解釈の結果であり、そこに歌われている言葉の意味をよく吟味すれば、薄暗い聖堂の奥の灯火が一層映えるのと同じように、歌一つ一つに凝縮されている炎に触れることができるはずである。

Abendmahlslied zu Weihnachten

Und es waren Hirten in derselben
Gegend auf dem Felde bei den
Hürden, die hüteten des Nachts
ihre Herde. Und siehe, des Herrn
Engel trat zu ihnen, und die
Klarheit des Herrn leuchtete um
sie; und sie fürchteten sich sehr.
Und der Engel sprach zu ihnen:
Fürchtet euch nicht! Siehe, ich
verkündige euch große Freude, die
allem Volk widerfahren wird; denn
euch ist heute der Heiland geboren,
welcher ist Christus, der Herr, in
der Stadt Davids.
Die Bibel

Mein Gott, dein hohes Fest des Lichtes
hat stets die Leidenden gemeint.
Und wer die Schrecken des Gerichtes
nicht als der Schuldigste beweint,
dem blieb dein Stern noch tiefverhüllt
und deine Weihnacht unerfüllt.

Die ersten Zeugen, die du suchtest,
erschieden aller Hoffnung bar.
Voll Angst, als ob du ihnen fluchtest,
und elend war die Hirtenschar.

Den Ärmsten auf verlassenem Feld
gabst du die Botschaft an die Welt.

Die Feier ward zu bunt und heiter,
mit der die Welt dein Fest begeht.

降誕祭の聖餐の歌〔1936年11月2年〕

その地方で羊飼いたちが野宿をし
ながら、夜通し羊の群れの番をし
ていた。すると、主の天使が近づ
き、主の栄光が周りを照らしたの
で、彼らは非常に恐れた。天使は
言った。「恐れるな。わたしは、民
全体に与えられる大きな喜びを告
げる。今日ダビデの町で、あなたが
のために救い主がお生まれにな
った。この方こそ主メシアであ
る。〔ルカ2, 8 - 11〕
聖書

我が神よ、あなたの大いなる光の祭典は、
常に苦悩の中にいる者のための祭りでした。
そして裁きの恐ろしさを
最も罪深い者として嘆かない人にとっては、
あなたの星はすっかり覆われたままで、
御降誕の約束がまだ果たされていないのです。

あなたが求められた最初の証人たちは、
まるで希望を一切失った人のようでした。
あたかもあなたが彼らを呪われているかの
ように
羊飼いたちの群れは恐れおののき、見るに
しのびなかったのです。
野辺に置き去りにされた最も貧しい人たち
にこそ
あなたは世への知らせを託したのです。

世はあなたの祭りを迎える際に、
あまりにも派手に、そして軽快に祝うよう
になりました。

Mach uns doch für die Nacht bereiter,
in der dein Stern am Himmel steht.
Und über deiner Krippe schon
zeig uns dein Kreuz, du Menschensohn.

Herr, daß wir dich so nennen können,
präg unseren Herzen heißer ein.

Wenn unsere Feste jäh zerrönnen,
muß jeder Tag noch Christtag sein.

Wir preisen dich in Schmerz, Schuld, Not
und loben dich bei Wein und Brot.

Weihnachtslied

Siehe, dein König kommt zu dir,
ein Gerechter und ein Helfer
Die Bibel

Sieh nicht an, was du bist, sondern
sieh hier, was dir heut widerfährt;
Sieh an den, der zu dir kommt;
sieh nicht an, daß du ein armer
Sünder bist.
L u t h e r

私たちがより良く闇夜に備えることができ
るようにしてください、
あなたの星が輝くその闇夜に。
そして、あなたの飼葉桶を見る私たちに
早やあなたの十字架をお示してください、人
の子よ。

主よ、私たちはあなたをこのように呼ぶこ
とが許されているのを、
私たちの心に深く、篤く刻んでください。
私たちのお祭りが不意に水の泡になっても
なお、
毎日がキリスト御降誕の日であるべきなの
です。
あなたを苦しみと罪と窮乏の只中でほめた
たえます。
そして、パンとぶどう酒を前にしてあなた
を賛美します。

クリスマスの歌〔1937年12月17日〕

見よ、あなたの王が来る。彼は神に
従い、勝利を与えられた者〔ゼカリ
ア9, 9〕
聖書

自分の有様を見つめないで、今日
あなたの身に起こることを良く見
なさい：あなたの所に来られる方
に注目しなさい。あなたが哀れな
罪人であることに注目するのは止
めなさい。
ルター

Sieh nicht an, was du selber bist
in deiner Schuld und Schwäche.
Sieh den an, der gekommen ist,
damit er für dich spreche.
Sieh an, was dir heut widerfährt,
heut, da dein Heiland eingekehrt,
dich wieder heimzubringen
auf adlerstarken Schwingen.

Sieh nicht, wie arm du Sünder bist,
der du dich selbst beraubtest.
Sieh auf den Helfer Jesu Christ!
und wenn du ihm nur glaubtest,
daß nichts als sein Erbarmen frommt
und daß er dich zu retten kommt,
darfst du der Schuld vergessen,
sei sie auch unermessen.

Glaubst du auch nicht, bleibt er doch treu,
er hält, was er verkündet.
Er wird Geschöpf – und schafft dich neu,
den er in Unheil findet.
Weil er sich nicht verleugnen kann,
sieh ihn, nicht deine Schuld mehr an.
Er hat sich selbst gebunden.
Er sucht: du wirst gefunden!

やめなさい、罪と弱さの只中にある
あなた自身に注目するのは。
あの方に注目しなさい、
あなたを弁護するために来られた方を。
良く見なさい、今日あなたの身に起こる
ことを、
あなたの救い主が訪れた、今日この日に、
あなたを再び故里へ導くために、
鷲のように力強い翼に乗せて。

やめなさい、罪人であるあなたの貧しさを
見つめるのを、
自分自身を失わせていたあなたの身を。
見上げなさい、助け手イエス・キリストを！
そしてあなたが彼を信じさえすれば、
彼の慈しみだけが有益であることを、
そして彼があなたを救うために到来される
ことを、
そうしたらあなたは罪責を忘れても良いの
です、
それがどんなに途方もなく大きくても。

あなたが信じなくても彼は誠実であり続け、
宣べ伝えたことを実現なさる。
彼は被造物となられ、あなたを新たに創造
される、
災いの只中にあるあなたを捜し出して。
彼はご自分を裏切ることがおできにならな
いから、
彼を見つめなさい、もはやあなたの罪責で
はなく。
彼は、ご自身をその約束に縛られたのです。
彼はあなたを捜し求め、あなたは見出され
るのです。

Sieh nicht mehr an, was du auch seist.
Du bist dir schon entnommen.
Nichts fehlt dir jetzt, als daß du weißt:
Gott selber ist gekommen!
Und er heißt Wunderbar, Rat, Kraft,
ein Fürst, der ewigen Frieden schafft.
Dem Anblick deiner Sünden
will er dich selbst entwenden.

Wie schlecht auch deine Windeln sind,
sei dennoch unverdrossen.
Der Gottessohn, das Menschenkind
liegt doch darin umschlossen.
Hier harrt er, daß er dich befreit.
Welch' Schuld ihm auch entgegenschreit –
er hat sie aufgehoben.
Nicht klagen sollst du: I o b e n !

Weihnachtslied

Und weil wir solches wissen,
nämlich die Zeit, daß die Stunde
da ist, aufzustehen vom Schlaf
(sintemal unser Heil jetzt näher ist,
denn da wir gläubig wurden; die
Nacht ist vorgerückt, der Tag aber
nahe herbeigekommen): so lasset
uns ablegen die Werke der
Finsternis und anlegen die Waffen
des Lichtes.
Die Bibel

自分を見つめるのはやめなさい,あなたは
何者であれ,
あなたは既に自我から解放されている。
神ご自身が到来されたということ,
これを知っていることだけが今のあなたに
必要なのだ。
そして,彼の名は麗しい,助言者,力,
永遠の平和をもたらす君。
あなたの罪への眼差しから
彼御自身があなたを解放されようとしてい
るのだ。

あなたのおむつがどんなに粗末でも,
たゆみなく望みなさい。
なにしろ神の子,人の子が
それにくるまっているのだから。
ここで彼はあなたを助け出そうと待ち焦が
れている。
どんなに底知れぬ罪が彼の耳に届こうとも,
彼はそれをもう帳消しにされたのだ。
嘆くのはやめなさい,むしろ賛美しなさい。

クリスマスの歌〔1937年12月18日〕

わたしたちは今がどんな時である
かを知っています。あなたがたが
眠りから覚めるべき時が既に来て
います。今や,わたしたちが信仰に
入ったころよりも,救いは近づい
ているからです。夜は更け,日は近
づいた。だから,闇の行いを脱ぎ捨
てて光の武具を身に着けましょう。
〔ローマ13, 11 - 12〕
聖書

Die Nacht ist vorgedrungen,
der Tag ist nicht mehr fern.
So sei nun Lob gesungen
dem hellen Morgenstern!
Auch wer zur Nacht geweinet,
der stimme froh mit ein.
Der Morgenstern bescheinet
auch deine Angst und Pein.

Dem alle Engel dienen,
wird nun ein Kind und Knecht.
Gott selber ist erschienen
zur Sühne für sein Recht.
Wer schuldig ist auf Erden,
verhüll' nicht mehr sein Haupt.
Er soll errettet werden,
wenn er dem Kinde glaubt.

Die Nacht ist schon im Schwinden,
macht euch zum Stalle auf!
Ihr sollt das Heil dort finden,
das aller Zeiten Lauf
von Anfang an verkündet,
seit eure Schuld geschah.
Nun hat sich euch verbündet,
den Gott selbst ausersah!

Noch manche Nacht wird fallen
auf Menschenleid und -schuld.
Doch wandert nun mit allen
der Stern der Gotteshuld.
Beglänzt von seinem Lichte,
hält euch kein Dunkel mehr.

闇夜は更けて
日が昇るのはもう遠くない。
だから賛美の歌を捧げよう
光輝く明けの明星に！
夜通し泣いた人も
朗らかに合唱に加わりますように。
明けの明星は
あなたの恐れと苦悩をも照らしてください。

全ての天使が使えるお方が
今や乳飲み子になり、しもべになられる。
神ご自身がお顕れになった、
神の義を償うために。
地上の罪ある人は、
もはや頭を覆い隠すのをやめなさい。
その人は救われるのだ、
この乳飲み子を信じるならば。

闇夜はもう去っていく、
さあ馬小屋へ出向きなさい！
そこであなたたちは救いを見出すだろう、
全ての時代にわたって
初めから告げられてきたこの出来事を、
あなたたちが罪を犯したその時から。
今やあなたたちの友となられたのは、
神ご自身が定められた方。

なおも幾夜が襲うだろう、
苦しみと罪の中にいる人を、
しかし、今や皆と共に
神の慈しみの星が歩むだろう。
その光に照らされて
あなたたちはもはや闇を後にする。

Von Gottes Angesichte
kam euch die Rettung her.

Gott will im Dunkel wohnen
und hat es doch erhellt!
Als wollte er belohnen,
so richtet er die Welt!
Der sich den Erdkreis baute,
der läßt den Sünder nicht.
Wer hier dem Sohn vertraute,
kommt dort aus dem Gericht.

Weihnachts-Kyrie

Und sie gebar ihren ersten Sohn
und wickelte ihn in Windeln und
legte ihn in eine Krippe; denn sie
hatten sonst keinen Raum in der
Herberge.
Die Bibel

Du Kind, zu dieser heiligen Zeit
gedenken wir auch an dein Leid,
das wir zu dieser späten Nacht
durch unsere Schuld auf dich gebracht.
Kyrie eleison!

Die Welt ist heut voll Freudenhall.
Du aber liegst im armen Stall.
Dein Urteilsspruch ist längst gefällt,
das Kreuz ist dir schon aufgestellt.
Kyrie eleison!

神の御顔から
あなたたちに救いが届いたのだ。

暗闇の中に住まおうとされる神は、
しかし、その暗闇を既に照らされたのだ。
あたかも労を報われるかのように
神はこの世を裁かれる！
ご自身のために大地をお創りになった方は、
罪人を見捨てられない。
ここで御子に身を委ねた人は、
そこでは裁きを逃れるのだ。

降誕のキリエ〔1937年12月20日〕

マリアは初めての子を産み、布に
くるんで飼い葉桶に寝かせた。宿
屋には彼らの泊まる場所がなかつ
たからである。〔ルカ2, 7〕
聖書

御子よ、この聖なる時に
私たちはあなたの苦しみも覚えます、
それは、私たちがこの夜遅くに
私たちの罪によってあなたに負わせた苦し
みです。
主よ、哀れんでください！

今日、世の中は喜びの響きで満ち溢れます。
しかし、あなたは貧しい馬小屋に寝かされ
ているのです。
判決はとうにあなたに言い渡され、
十字架は既にあなたのために立てられてい
るのです。
主よ、哀れんでください！

Die Welt liegt heut im Freudenlicht.
Dein aber harret das Gericht.
Dein Elend wendet keiner ab.
Vor deiner Krippe gähnt das Grab.
Kyrie eleison.

Die Welt ist heut an Liedern reich.
Dich aber bettet keiner weich
und singt dich ein zu lindem Schlaf.
Wir häuften auf dich unsere Straf'!
Kyrie eleison!

Wenn wir mit dir einst auferstehn
und dich von Angesichte sehn,
dann erst ist ohne Bitterkeit
das Herz uns zum Gesange weit!
Hosianna!

Baum der Erkenntnis des Guten und Bösen

Baum der Erkenntnis des Guten und Bösen,
Baum zu Gottes Liebe,
deine Frucht war uns von Gott versagt;
deine Frucht war die Gehorsamsprobe.
Wir werden hart von dir verklagt.
Unsre Herzen sind versagt.
Wer wird uns erlösen?

今日、世の中は喜びの輝きに浸っています。
しかし、あなたを待ち受けているのは裁き
です。
あなたの苦しみを止める人は誰もいません。
あなたの寝かされた飼葉桶の前には墓が
口を開いています。
主よ、哀れんでください。

今日、世の中は歌声で溢れています。
しかし、あなたを柔らかい布団に寝かせる
人はだれもいません。
ゆりかごの歌を歌ってあなたを安らかな眠
りに付かせる人はだれもいません。
私たちは私たちが受けるべき罰をあなたに
背負わせたのです！
主よ、哀れんでください！

いずれ私たちがあなたと共に復活して、
あなたに直面するときに。
初めて私たちは苦渋の思いもなく、
晴れ晴れと賛美を捧げるでしょう！
ホサナ！

善と悪を知る木〔1939年7月24日〕

善と悪を知る木よ、
神を称える木よ、
私たちはあなたの実をとることを神に禁じ
られていた。
あなたの実が服従の試練をもたらした。
私たちはあなたから厳しく糾弾される。
私たちの心は滅入っている。

(1.Mos 2, 16 f)

Lebensbaum, mitten im ewigen Garten,
Baum zu Gottes Ehre!
Seinen Engel hat der Herr bestellt,
daß er uns den Weg zu dir verwehre.

Gott scheidet Eden und die Welt.
Duldet nun, was ihm gefällt!
Lernt der Gnade warten!

(1. Mos 3, 22-24)

Grünende Tanne, du Zeichen des Lebens!
Heil, das Gott uns kündigt!
Gott will eine grüne Tanne sein,
dran man Frucht, die wir nicht bringen,
findet.

Der Gottestanne Frucht ist fein.
Ihre Ernte nennt Gott dein.
Gott schafft nichts vergebens.

(Hos 14,9)

Feigenbaum, den der Herr zornig
erblickte,
bleibe meiner Seele
mahndend, warnend, drohend eingepägt,
daß sie wisse, was ihr bitter fehle.

Gott gib, daß mich die Axt nicht schlägt
und mein Leben Früchte trägt,
das dein Licht erquickte.

(Lk 13, 6-9)

誰が私たちを助けるのか？

(創世記 2 , 16・17)

永遠の園の只中に立つ命の木よ、
神の栄光を称える木よ！
主はご自身の天使に命じ、
私たちがあなたのところへ進むことを拒ま
れる。

神はエデンを世から切り離される。
今や神の御心に甘んじて耐えなさい！
御恵みを待つことを学びなさい！

(創世記 3章 22 - 24 節)

萌える木よ、命のしるしよ！
神が私たちに告げられる救済よ！
神は青い縦の木であらわたいのだ、
私たちが結べない実はその木に成るのだ。
神の縦の実は上質だ。

その収穫を神はあなたの手に渡される。
神の創造されたものは、決して無駄になる
ことはない！

(ホセア 14 章 9 節)

主が怒りをもってご覧になったいちじくの
木よ！

私の魂に
注意、忠告、警告の声を刻み、
魂が何を欠乏しているのかを知らしめてく
ださい。

神よ、斧が私を打ちのめないようにしてく
ださい、

そして私の命が実を結ぶように、
あなたの光が元氣付けたこの命が。

(ルカ 13 章 6 - 9 節)

Lebensholz, fruchtbar an Wassern, den
klaren,
die vom Throne fließen,
drauf das Lamm mit Gott dem Herrn
regiert;
Holz, darauf die Blätter ewig sprießen:
Du warst zum Kreuz des Lamms erkürt.
Herrlich hast du triumphiert,
grünst in ewigen Jahren!
(Offb 22, 1f.)

澄んだ泉で豊かな実りをもたらす命の木片よ、
玉座から流れ出る泉で、
その玉座で子羊が主なる神と共に世を治め
られる。
葉が永遠に芽吹く木片よ、
お前は子羊の十字架に選ばれたのだ。
お前は栄光を勝ち撮ったのだ、
代々に萌えるのだ！
(黙示録 22,1・2)

Weihnachtslied in Kriege

Nun ruht doch alle Welt und ist
still und jauchzt fröhlich. Auch
freuen sich die Tannen
Die Bibel

戦争の中のクリスマスの歌
〔1939年10月15日〕

今、全世界は安らかに憩い
喜びの声を放つ。糸杉も喜ぶ。
〔イザヤ 14, 7, 8〕
聖書

Nun ruht doch alle Welt.
O Herz, wie willst du's fassen?

今や世界中が静まり返る。
我が心よ、これをどうやって理解したらよ
いのだろう。

Die Erde liegt im Streit,
von allem Heil verlassen,
ist friedlos weit und breit
und wider dich gestellt.

地は戦いの只中にあり、
全ての救いから遠ざかっている、
いたる所で平穏は失われ、
あなたに対抗している。

Doch der die Erde schuf,
hat deine Angst gesehen
und hat sich aufgemacht,
will dir zur Seite stehen,
ein Helfer voller Macht.
Hell klingt sein Friedensruf.

しかし、地を創造された方は、
あなたの不安をご覧になり、
あなたのところにこられたのだ。
あなたを支え、
力強くあなたを助けようとされる。
声高らかに彼の平和の呼び声が響く。

Wie wird die Welt so still.
O Herz, wie sollst du's glauben?

Du trägst so schwere Last.
Die Welt will alles rauben,
was du so heiß umfaßt.
Des Leidens ist kein Ziel.

Doch der das A und O,
der Anfang und das Ende,
tritt heut in deine Zeit
und legt in deine Hände
das Pfand der Seligkeit.
Das macht dich reich und froh.

Die Welt jauchzt fröhlich auf.
O Herz, wie kann's dich wecken?

Dich hat die Not versteint.
Der Erdkreis hat viel Schrecken
zu deiner Qual vereint
und türmt sie dir zu Hauf.

Doch der das Leben gab,
den Mund mit Odem füllte,
spricht selbst dir Tröstung zu.
Kein Schmerz, den er nicht stillte!
Kein Werk, das er nicht tu!
Dein Heiland kommt herab! –

Die Tannen freuen sich.
Die Hürden auf dem Felde

世がなんと静かになってきたことか。
我が心よ、それをどうやって信じればよい
のだろう。

あなたの背負っている荷はこんなにも重い。
あなたが篤く保持しているものを、
世は完全に奪い取ろうとしている。
苦しみに終わりはない。

しかし、アルファでありオメガである方、
初まりであり、終わりである方は、
今日あなたの時代の只中に来られ、
あなた的手中に
至福の前触れを収められる。
それがあなたに豊かさ喜びをもたらす。

世は歓喜の声を上げる。
我が心よ、それがいかにあなたを目覚めさ
せるのだろう。

窮乏があなたをこわばらせてしまった。
地は、多くの恐ろしさで
あなたを苦しめ、
あなたの前に積み上げていく。

しかし、命をお与えになった方、
口に息を吹き込まれた方ご自身が、
あなたに慰めの言葉を掛けられる。
彼が鎮めてくださらない痛みはない！
彼がなさない業はない！
あなたの救い主が下られる！

もみの木は喜ぶ。
野辺の群れを

erhellte ein klarer Schein.
Komm, Engel, komm und melde:
Was bricht zur Nacht herein?
Kommst du und meinst auch mich?

Gott Lob! In deinem Licht
darf ich das Licht erschauen,
Das Kind, den Herrn der Welt!
Ihm will ich mich vertrauen,
Er ist es, der mich hält
und rettet im Gericht.

Weihnachtslied

Nachdem vorzeiten Gott
manchmal und mancherleiweise
geredet hat zu den Vätern durch
die Propheten, hat er am letzten in
diesen Tagen zu uns geredet durch
den Sohn, welchen er gesetzt hat
zum Erben über alles, durch
welchen er auch die Welt gemacht
hat; welcher sintemal er ist der
Glanz seiner Herrlichkeit und das
Ebenbild seines Wesens und hat
gemacht die Reinigung unserer
Sünden durch sich selbst, hat er
sich gesetzt zu der Rechten der
Majestät in der Höhe. Wir sind nun
Gottes Kinder; und es ist noch
nicht erschienen, was wir sein
werden. Wir wissen aber, wenn es
erscheinen wird, daß wir ihm
gleich sein werden.
Die Bibel

澄んだ輝きが照らし出す。
お出でください、天使よ、お出でくださり
告げてください：
この夜にこの身に振りかかるものはなんで
すか？
お出でになったら私にもお告げがあります
か？

神に感謝！あなたの光の中で
私は光を見ることが許される，
御子を，世の主を！
彼にこの身を委ねよう，
彼こそ私を支えられる方，
そして裁きの時に救ってくださる方。

クリスマスの歌〔1940年10月23日〕

神は、かつて預言者たちによって、
多くのかたちで、また多くのしか
たで先祖に語られたが、この終わ
りの時代には、御子によってわた
したちに語られました。神は、この
御子を万物の相続者と定め、また、
御子によって世界を創造されました。
御子は、神の栄光の反映であ
り、神の本質の完全な現れであ
って、万物をご自分の力ある言葉
によって支えておられますが、人々
の罪を清められた後、天の高い所
におられる大いなる方の右の座に
お着きになりました。〔ヘブル人へ
の手紙 1,1 - 3〕わたしたちは、今
既に神の子ですが、自分がどのよ
うになるかは、まだ示されていま
せん。しかし、御子が現れるとき、
御子に似た者となるということを知
っています。〔第一ヨハネ 3, 2〕
聖書

Wer warst du, Herr, vor dieser Nacht?

Der Engel Lob ward dir gebracht.
Bei Gott warst du vor aller Zeit.
Du warst der Glanz der Herrlichkeit.
Beschlossen war in dir, was lebt.
Geschaffen ward durch dich, was webt.
Himmel und Erde ward durch dich
gemacht.
Gott selbst warst du vor dieser Nacht.

Wer war ich, Herr, vor dieser Nacht?

Des sei in Scham und Schmerz gedacht!
Denn ich war Fleisch und ganz verderbt,
verloren und des Heils enterbt.

Erlöschen war mir alles Licht.
Verfallen war ich dem Gericht.
Ich, dem Gott Heil und Gnade zgedacht,
war Finsternis und Tod und Nacht!

Wer wardst du, Herr, in dieser Nacht?

Du, dem der Engel Mund gelacht,
dem nichts an Ruhm und Preis gefehlt,
hast meine Strafe dir erwählt.
Du wardst ein Kind im armen Stall

und sühtest für der Menschheit Fall.
Du, Herr, in deiner Himmel höchster
Pracht

この夜がくる前に、主よ、あなたは誰でし
たか？
天使たちの賛美が御前に捧げられました。
代々からあなたは神のもとにおられました
た。

あなたは栄光の耀きでした。
生きとし生けるものは、御腕にあり、
生けるものはあなたによって造られました。
天地はあなたにより創造されたのです。
この夜がくる前に、あなたは神ご自身であ
られました。

この夜がくる前に、主よ、私は誰でした
か？

羞恥心と痛恨の中で思い出しましょう。
私は肉でした、そして完全に墮落し、
滅び、救いを受け継ぐ権利を奪われていま
したから。

私は全ての光を見失っていました。
私は神の裁く手の中に落ちていました。
神が救いと恵みを与えようとしていたこの
私が
暗闇であり、死であり、闇夜でありました。

この夜に、主よ、あなたは誰になられたの
ですか？

天使たちが口々に微笑みかけたお方、
誉と賛美には何一つことかかなかったお
方、そのあなたが私の受けるべき刑を選ば
れたのです。

あなたは貧しい馬小屋でお生まれになり、
人類の墮罪を償われました。
壮麗この上ない天空におられる主よ、

wardst ein Gefährte meiner Nacht!

Wer ward ich, Herr, in dieser Nacht?

Herz, halte still und poche sacht!

In Gottes Sohn ward ich Sein Kind.

Gott ward als Vater mir gesinnt.

Noch weiß ich nicht: Was werd' ich sein?

Ich spüre nur den hellen Schein!

Den hast du mir in dieser heil'gen Nacht

an deiner Krippe, Herr, entfacht!

あなたが私の闇夜の同伴者となられたので
す！

この夜に、主よ、私はだれになったのです
か？

我が心よ、立ち止まって静かに鼓動するの
だ！

御子によって私は神の子とされました。

神は私に父として自らを示されました。

私はいずれ何になるのか、まだ知りません。

ただ明るい耀きを感じるだけです。

その光をあなたはこの聖なる夜に

あなたの飼い葉桶で、主よ、あなたが燈さ
れたのです。

註

- (1) Jochen Klepper: Kyrie. 20.unveränd. Aufl., Bielefeld 1998.
- (2) Jochen Klepper: Ziel der Zeit. Die gesammelten Gedichte. Bielefeld 1980.
- (3) Neue Weihnachtslieder. Klavier=Ausgabe. Erw. Aufl., 1953. Kassel u. Berlin 1967.
- (4) Jochen Klepper: Unter dem Schatten deiner Flügel. Aus den Tagebüchern 1932-1942. München 1976. S. 781(27.Juli 1939).
- (5) 前掲書, p. 789 (24.Juli 1939)
- (6) Evangelisch-Lutherisches Kirchengesangbuch. 2. Aufl., Göttingen 1988. Nr. 14, Nr. 419. – Evangelisches Gesangbuch. Ausgabe für die Evangelische Landeskirche in Baden, pour l'Eglise de la Confession d'Augsbourg d'Alsace et de Lorraine, pour l'Eglise Reformée d'Alsace et de Lorraine. 2. Aufl., Karlsruhe 1996. Nr. 16, Nr. 50. ここでは南西地域の教会の版を挙げたが、二編とも諸地域共通の部(“ Stammteil ”)に収録されているので、他の地域の “ Evangelisches Gesangbuch ” にも載っている。
– Gesangbuch der Evangelisch-reformierten Kirchen der deutschsprachigen Schweiz. Basel u. Zürich 1998. Nr. 372, Nr. 415. – Gotteslob. Katholisches Gebet- und Gesangbuch. Stuttgart 2000. Nr. 111, Nr. 157 等。
- (7) 『讃美歌 21』, 日本基督教団出版局 2002 年 4 版, 243 番, 273 番。『新生讃美歌』日本バプテスト連盟 2003 年 10 月第 2 版。日本語のリズムを原詩ドイツ語のメロディーに乗せているせい、いずれも古語の文体が支配的である。
- (8) 岩波書店 1994 年, p. 2 3 (1939 年作詞の「戦争の中のクリスマスの歌」を一部和訳), p. 24 26 (1940 年作詞の「クリスマスの歌」を全訳)
- (9) 詳細は、Homepage www.alexanderbehrend.de の文献リストを参照。